

FIVE VALUE ASSET

Monthly Newsletter

5 バリュース通信 Vol.13

Date of issue: 2025.11.17

平素よりお世話になっております。5 バリュースセットでございます。今月もマンスリーレターとして5 バリュース通信をお届けいたします。マーケットニュースのご案内の他に、時事に関するコラムなどを月に1 回お届けいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

Interview メンバーの言葉



ジュニア・マーケティング &
プロダクト オフィサー
ロペス・ペニエル

今月は、私のメキシコのルーツにちなんで、「Día de Muertos (死者の日)」とソチミルコの「カラカス (骸骨)」についてご紹介します。

死者の日は、11 月 1 日と 2 日に祝われるメキシコの伝統行事で、亡くなった方々を悲しむのではなく、感謝と喜びをもって思い出を分かち合うお祭りです。家族はマリーゴールドの花やろうそく、故人の好きだった料理で祭壇を飾り、先祖を迎えます。

メキシコシティのソチミルコでは、カラフルなカラカス (骸骨の飾り) が運河を彩りますが、これは死は終わりではなく人生の旅の続きであるという思いを表しています。

このお祭りの精神は、感謝の心と前向きな姿勢で日々の仕事に取り組むことの大切さを思い出させてくれます。ソチミルコの光るカラカスのように、お客さまの資産運用にも明るさと希望をもたらせるように努めていきたいと思ひます。

Topics 今月のトピックス



11 Nov 2025

- Reading literature
- Thanksgiving & Black Friday
- Impressions of seminar



- ・芥川龍之介の作品に触れる
- ・「感謝祭」と「黒い金曜日」
- ・第9 回オフサイトセミナーの感想 (1)



芥川龍之介（1892-1927）東京生れ。東京帝大英文科卒。在学中から創作を始め、短編「鼻」が夏目漱石の激賞を受ける。その後今昔物語などから材を取った王朝もの「羅生門」「芋粥」「藪の中」、中国の説話によった童話「杜子春」などを次々と発表、大正文壇の寵児となる。西欧の短編小説の手法・様式を完全に身に付け、東西の文献資料に材を仰ぎながら、自身の主題を見事に小説化した傑作を多数発表。1925（大正14）年頃より体調がすぐれず、「唯ぼんやりした不安」のなか、薬物自殺。「歯車」「或阿呆の一生」などの遺稿が遺された。

『故郷を忘れた日本人へ』（2022、啓文社書房）や『読めない人のための村上春樹入門』（2025、NHK出版）などの著作を持つ文筆家の仁平千香子先生にお越しいただいた第9回オフサイトセミナーでは文学をテーマにご講演を頂き、その中で芥川龍之介の短編「蜜柑」（1919）が取り上げられました。仁平先生は「近代化が当然となった大正時代（好景気で物がたくさんある時代）の作家であり、現代の価値観と大正時代の価値観にあまり相違がない」ことから、芥川作品を現代に絡めて読み直すことを重要視されています。

多くの方は国語の教科書で芥川作品（「鼻」「トロッコ」「羅生門」など）に触れた経験があると思いますし、「藪の中」が原作である黒沢映画『羅生門』（1950）が芥川を読み直すきっかけになった、という方も少なくないと思われます。また、芥川は初期・中期・後期で作風が大きく変化しており、国語の教科書に掲載される作品の多くは神話・伝説・昔話といった「説話文学」に題材を取った初期（「羅生門」「さまよえる猶太人」ほか）や、秀でた文章技巧やレトリックに加えて深い読解に耐える作品構造を持った中期の作品が中心となっています。

芸術至上主義が色濃く出たとされる中期では「地獄変」（1918）、「蜜柑」、「杜子春」（1920）、「藪の中」（1922）、「トロッコ」（1922）、「猿蟹合戦」（1923）、死生観をテーマにしたり、現代を舞台にした私小説が多くなる後期は「点鬼簿」（1926）、「或阿呆の一生」（1927）、「河童」（1927）、「蜃気楼」（1927）、「歯車」（1927）などがあります。

現代の価値観は芥川が作品を発表してきた大正時代と変わらない部分も多く、晩年の「河童」や「歯車」などで扱われた風刺的な社会批判や、不安や孤独感のイメージや都市風景の描写などを現在と重ねながら読んでみると、発見や気づきが多くあると思います。

蜜柑・尾生の信



7015
岩波文庫

芥川作品はweb上では青空文庫で、書籍版は各出版社の文庫版で読むことができますが、収録作品は各社によってかなり異なります。まず入門的なものとしては、「蜜柑」と同じく「私」が遭遇した出来事を描く「沼地」なども収録された短編集『蜜柑・尾生の信 他十八編』（岩波文庫）があげられます。短編集ということもあり、長らく文学作品を読んでいないという方でも気軽に読み進められると思うので、最初に手に取るものとしてはこちらが適していると思われます。



『羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 他十八編』（文春文庫）は少々厚みがある文庫本ですが、「羅生門」（1915）、「鼻」（1916）、「芋粥」（1916）、「蜘蛛の糸」（1918）、「地獄変」、「杜子春」、「河童」、「歯車」など、初期・中期・後期の代表作が網羅されているので、『蜜柑・尾生の信』に続けて芥川作品を通史的に読む際には利便性の高い作品集です。『蜜柑・尾生の信』の収録作に比べ、中・長編が多いほか、晩年の作品には心象風景を小説にした作品も多く、読み手の想像力などもより必要になってきますが、ぜひ一読されることを薦めます。

仁平先生がセミナーでお話されたように、パフォーマンス主義の現代においてはタイパもコスパも悪いため文学は敬遠される傾向にあります。ですが、「安易な断定」が氾濫する情報化社会に流されないよう、他者に対する想像力や、答えのない物事（あるいは「余白」）について自ら考える力といったスキルを鍛えるうえで重要な役割を担っているのが文学なので、まずは手軽な短編から芥川作品を読み始めてみてはいかがでしょうか。

Thanksgiving & Black Friday 「感謝祭」と「黒い金曜日」

はや、立冬も過ぎ朝晩の冷え込みが身に染みる季節となりました。今年も残すところあと二月、そこはかとなく慌ただしさや、物悲しさを感じ、柄にもなく感傷的になっていた折、ふとスマートフォンを見やると「ブラックフライデー」の文字が躍っていました。(そうか、そろそろこの時期か！欲しいものが安くなっていると嬉しいな♪)。現金な筆者は、おセンチな気分など立ちどころに彼方へ吹き飛び、セールの開始を心待ちにしているのです。



かように私達(少なくとも筆者)の生活にすっかり溶け込んでいる「ブラックフライデー」、今年は11月28日ですが、なぜこの時期なのでしょう。また「ブラックフライデー(黒い金曜日)」のネーミングは些か物騒にも思えますが由来は何なのでしょう。今回はその辺りを紐解いてみたいと思います。それにはまず「ブラックフライデー」の前日である「感謝祭(Thanksgiving Day)」について理解する必要があります。自然の豊かな恵みに感謝する秋のお祝いは世界各地に見られ、わが国でも11月23日に執り行われる新嘗祭にいなめさいが古来よりありますが、どうも米国のそれは豊穡のみならず、家族や親しい友人との絆や支え合いに深く感謝するという意味合いの方が今日ではむしろ強く、これは「感謝祭」が米国の連邦休日となった成り立ちに起因するものと考えられます。

一般的には「1620年にメイフラワー号に乗って新大陸に渡ったピルグリム(清教徒)を先住民が助け一緒に収穫を祝った宴を開いた」ことが「感謝祭」の始まりとされています。(その後の先住民の悲惨な歴史を鑑みるに到底事実とは思えないという説も多々あります。)しかる後、「感謝祭」は各地の教会や州知事の宣言によりバラバラに行われていましたが、これを連邦国家の祝日として定着させたのは第16代大統領のリンカーンでした。南北戦争の終盤1863年に、11月の最終木曜日を公式に「感謝祭」として定めることを宣言したのです。北軍・南軍に別れ激しく消耗した内戦から国内の融和と団結を取り戻すべく、家族の集いを奨励するのが狙いだったとされています。これが見事に奏功し今日に至っているという訳です。

「感謝祭」の前後は家族で集うべく国内の大移動が起きます。さしずめ日本における盆暮れの帰省・Uターンラッシュといったところでしょうか。面白いのは「感謝祭」翌日の行動パターンです。「家族の絆も確認できたし、七面鳥もたらふく食べたし、明日は街に繰り出して買い物三昧だ」となるのです。流石GDPの約7割を個人消費が占める消費大国ですね。斯くして、クリスマスに向けた年末セールの火蓋が切られることになります。

ここでようやく本題の「ブラックフライデー」に辿り着きました。時期については以上述べた通りですが、ブラックとはこれ如何に？諸説ありますが、初出は1950年代のある産業月刊誌だそうです。「感謝祭」翌日は多くの労働者が仮病を使って欠勤するために工場が計画通りに稼働できなくなる日として、「ブラックフライデー」と称したのです。(この時代に週休二日制が定着していたことに驚かされます)また1960年代の地方紙では、地元警察の交通班が「感謝祭」翌日は買い物客が道にあふれて仕事が増えるから「ブラックフライデー」と呼んでいる、という嘲笑的なネタを紹介しています。いずれもこの時点ではブラックはややネガティブな意味合いで使われているのですが、1980年代にフィラデルフィアの地方紙が、小売り業界が儲かり黒字になるから「ブラックフライデー」だとのポジティブな見方を展開してから、今日使われている意味合いが定着していったとされています。

世界的なインフレ傾向が続く中、消費者にとっては嬉しい「ブラックフライデー」ですが、望ましくないそれもあります。さる10月10日の金曜日、トランプ大統領の対中追加関税とソフトウェア輸出規制発表に端を発してビットコインが急落しました。24時間のうちに約195億ドルの建玉(ポジション)が消滅し160万人強の投資家が強制ロスカットを余儀なくされたのです。商品市況界隈ではこれを「クリプト(暗号資産)・ブラックフライデー」と呼んでおり、同日は米国株式市場も下落したのですがその後は回復、一方ビットコインは低迷が続き、明暗が分かれた日として刻まれています。

今年も残すところあと二月。どうか「ブラックフライデー」は嬉しいイベントとしてのみ通過して、健やかな年の瀬を迎えられたらと強く願う次第です。

Impressions of seminar 第9回オフサイトセミナー感想(1)

当社では週例ミーティング後、勉強会の一環として5バリュー発表と題した持ち回りの発表を行っています。今回は2025年9月に開催された第9回オフサイトセミナー「文学から『お陰さま』を学ぶ～なぜ今、文学なのか～」(講師: 仁平千香子先生: 文筆家、フリースクール東京 y's Be 学園実学講師) についての感想をテーマに行った発表の中から内容の一部をご紹介します。



芥川の「蜜柑」は短編ながら様々な読み方ができ、「余白」を考えるためのテキストとして高い有用性を感じました。主人公が「娘」に抱く心持ちの変化を自分にあてはめて考えることもありました。マスリテールではない5バリューアセット(5VA)が目標とする、個々のお客さまに満足していただけるサービスの提供のためには、他者に対する想像力が重要になると意識しました。

(合田 潔 チーフ・コンプライアンス・オフィサー)

「なぜ今、文学なのか?」という問いは、当社にあてはめてみると「なぜ今(タイパ・コスパの良くない)債券なのか?」という問い立てにも繋がると感じました。荒れた相場にも強い、という粘り強い商品性を持つ債券の良さを伝えるには、富裕層の方にも響くような切り口での知恵や語りの引き出しが不可欠であると考えました。

(団 いどむ エグゼクティブ・ディレクター)

私たちがお客さまと接する際は金融(異界)の道理をそのまま押し付けるのではなく、能のワキ方のように「間」^{あわい}の関係性に徹し、異界と現世を橋渡すことを念頭に置く必要があると考えました。相場についても、情報の羅列ではなく流れ/物語として解説し、銘柄選定やポートフォリオ構築もプロセス重視でお客さまと向き合って決定し、金融の道理を頭ではなく腹に落として理解してもらうことが肝心になると思いました。

(野口 智之 マーケティング&プロダクトオフィサー)

情報過多の現代においては、断片的な情報が正解だと思い込まないこと、情報に左右されすぎないことが重要と感じました。自分の力で考え、お客様それぞれに合った提案に繋げていくことが私たちの強みになります。情報は誰が発信するかによって評価が変わってくるため、お客様との間に信頼関係がある5VAが提案・発信^{あわい}するからこそ、提案にご納得いただけることが多くあり、5VAはお客さまと「おかげさま」で成り立つ「間」を大事にする会社でありたいと考えています。

(井上 裕佳子 営業アシスタント)

今回のセミナーで特に印象に残ったのは、想像力は他者を理解することに役立つという点です。文学は言葉以上に、登場人物の感情や背景を想像しながら読むことによって、他者を理解する力を自然に育ててくれると感じました。お客さまに向き合うときも、目の前のニーズに応えるだけでなく、要望の奥にある本音や不安、将来に対する思いなどを想像することで、提案の価値は大きく変わるだろうと感じました。

(稲垣 景子 営業アシスタント)



5Value Asset Co., Ltd.



5バリューアセット株式会社 金融商品仲介事業者 近畿財務局長(金仲)第437号

各商品等にご投資いただく際には商品毎に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。又、各商品等には価格の変動等による損失を生じる恐れがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をよくお読みになり内容について十分にご理解ください。

この通信は、当社ホームページに掲載するほか、当社セミナーにご参加いただいた方、業務提携をいただいた方、およびIFA口座をお申し込みいただいた方に送付しております。送付の停止・送付先変更をご希望の場合は、大変お手数ですが下記のメールにご連絡ください。送付の停止・送付先変更には、少々お時間をいただく場合がございます。

発行者: 5バリューアセット株式会社 クライアント・リレーション

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビル20F

newsletter@5valueasset.com